

JAPAN DESIGN LIGHTING & INTERIOR - Vol.3



HIYOSHIYA | CONTEMPORARY

www.wagasa.com/JDLI

WASHI PAPER

LACQUER

METAL

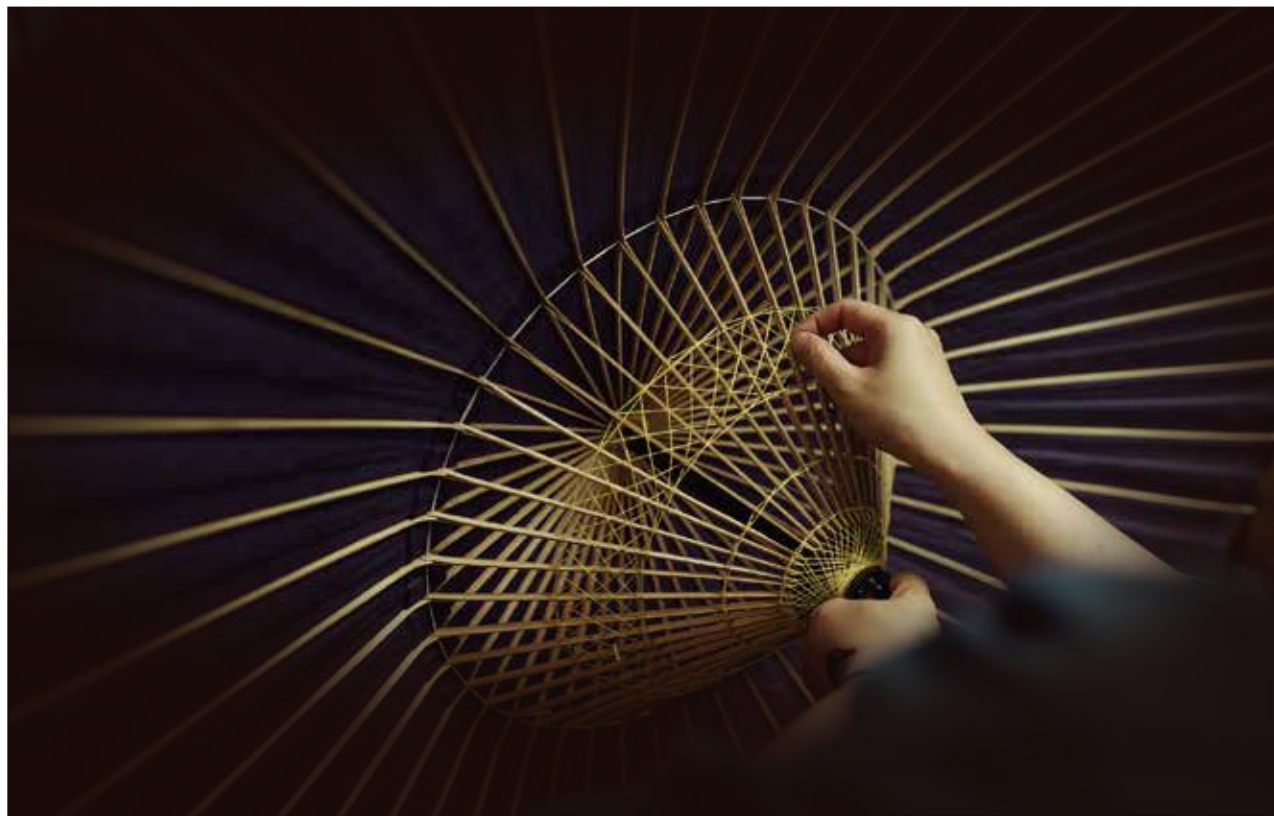
CERAMIC

BAMBOO

WOOD

FABRIC

TATAMI



江戸時代後期創業、唯一の京和傘の老舗「日吉屋」は
2006年「伝統は革新の連続」を理念とし、伝統の技術を活かした
インテリア照明「古都里-KOTORI-」シリーズを開発しました。

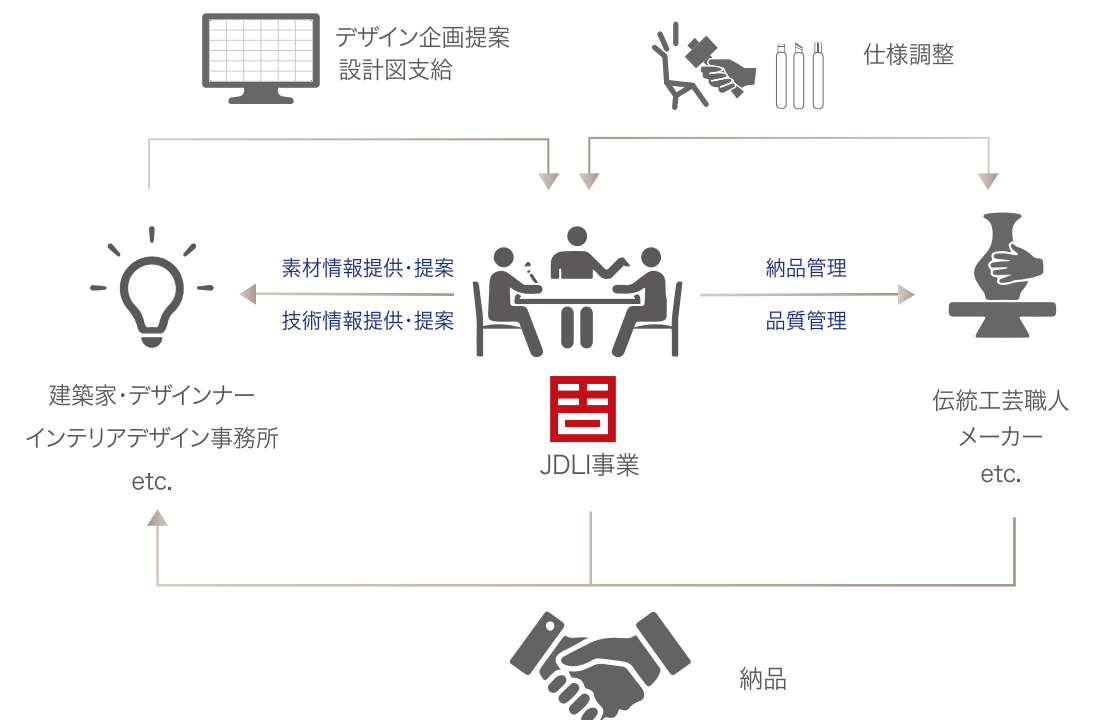
和傘のように開閉できる斬新なアイデアと、繊細な竹骨、
そして、和紙を透過する優美な光は、国内外のお客様に支持され、
住宅、商業施設、宿泊施設など、数多くのプロジェクトで採用されています。

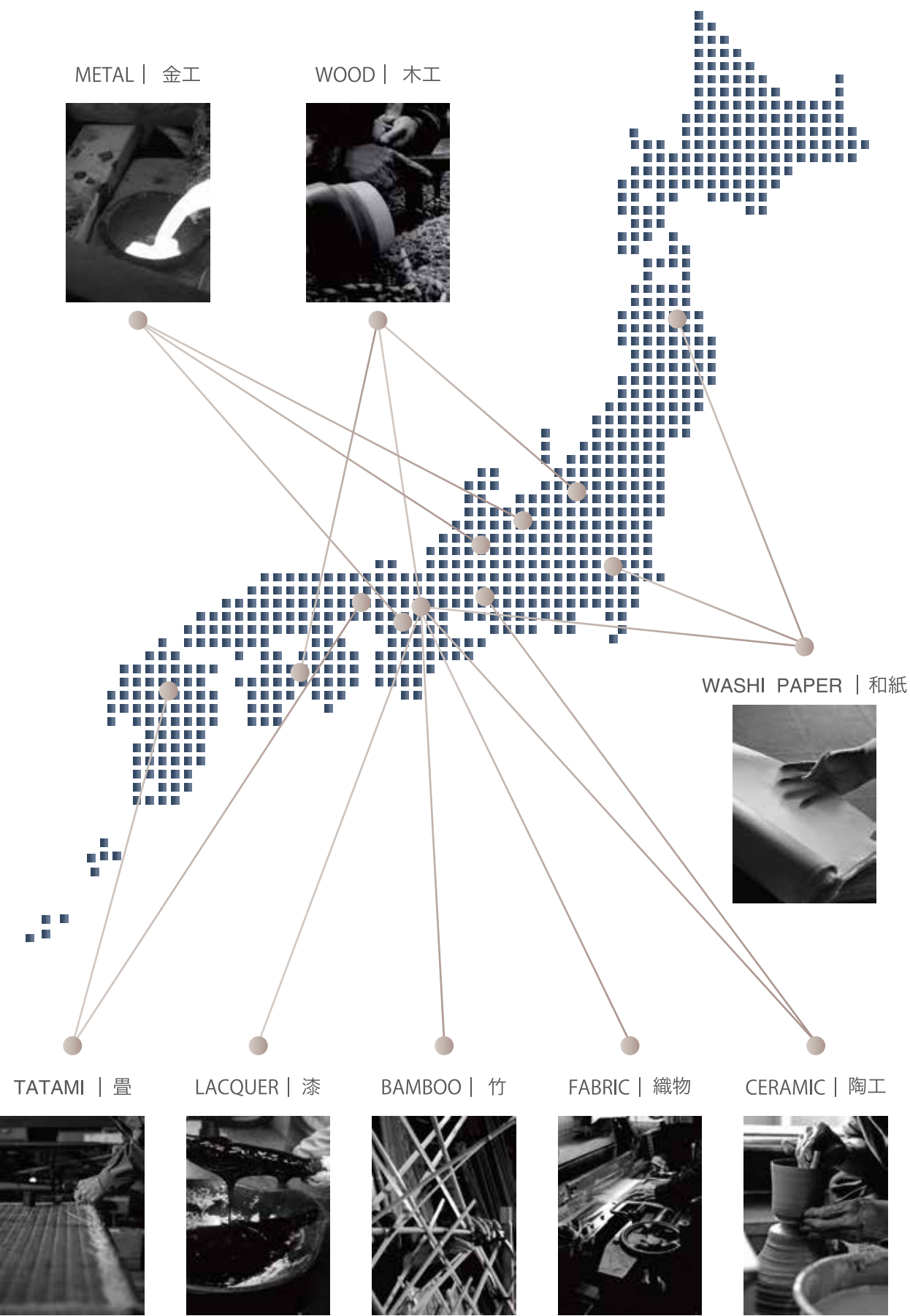
京和傘をインテリア照明に昇華した取り組みは、
伝統工芸の世界に一石を投じ、
新たな価値を創出した事例として、広く知られるようになりました。

和傘に起こせた革新は、
竹、和紙、漆、陶磁器、織物、染物など、
日本が世界に誇る、様々な伝統工芸の分野でも可能なはず-----

JDLI(Japan Design Lighting & Interior)事業は、
伝統文化の技術・意匠・素材を用いて
日本、世界のインテリア空間に
美しさ、歴史、物語という唯一無二の価値をご提案致します。

WORK FLOW





WASHI PAPER | 和紙



和紙の特徴は、洋紙に比べて繊維が長く、薄くても丈夫で、産地や技法により様々な質感や美しさを演出できます。和紙は文化財の修復にも使われ、1000年以上とも言われる優れた保存性を有し、多種多様な工芸品の材料や、建具等にも使用されてきました。近年では、天然素材として自然環境への配慮や、明かりを透過した時の美しさが再評価され、インテリア空間での需要が高まっております。







Design by C&DC co.,Ltd 佐久間圭介





Design by 山本良介 Photo by Yoshiharu MATSUMURA



Design by 山本良介 Photo by Yoshiharu MATSUMURA



Design by 山本良介



Design by 山本良介



Design by Yenhua LU



Design by Yenhua LU



Design by Yenhua LU





WASHI PAPER



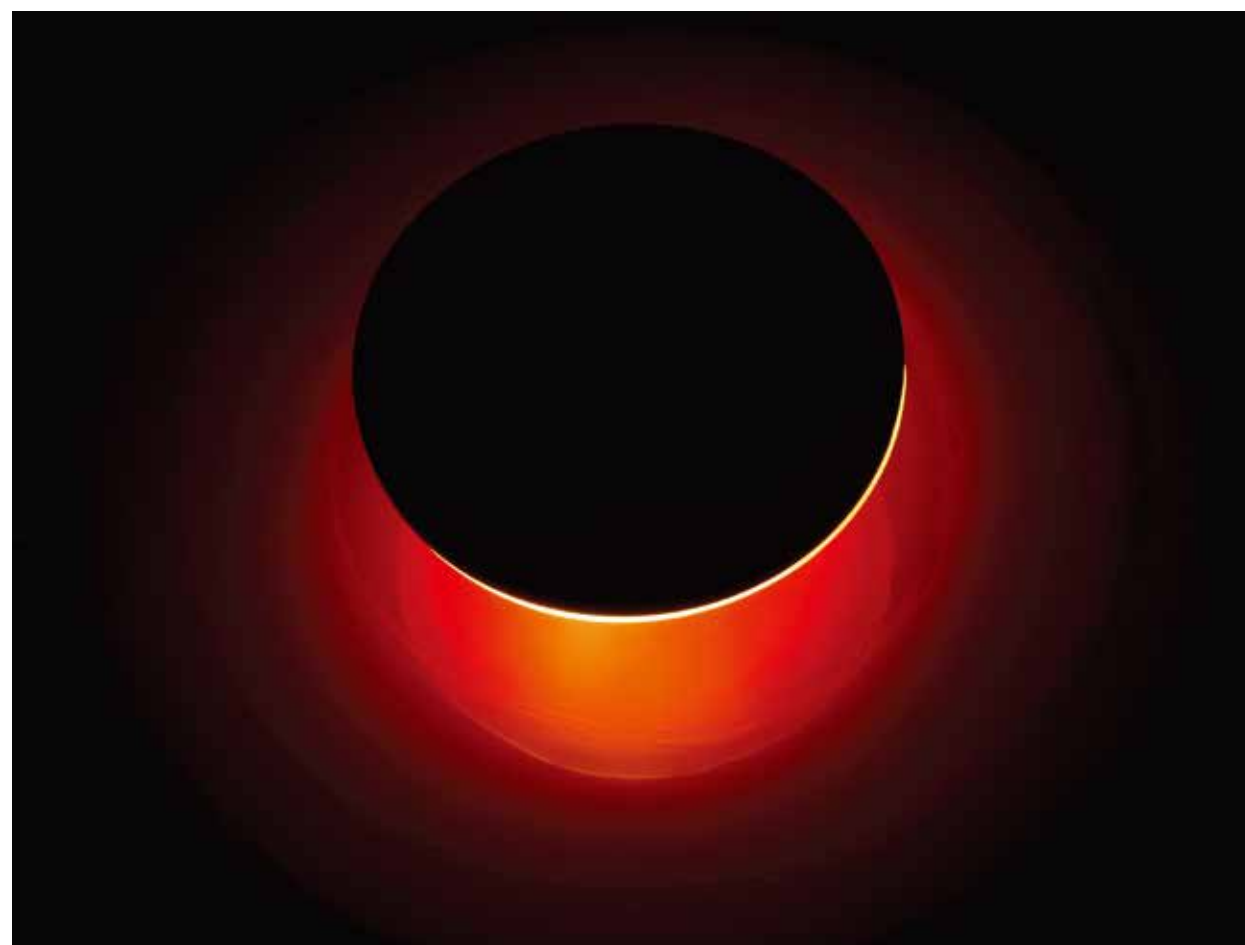
LACQUER | 漆



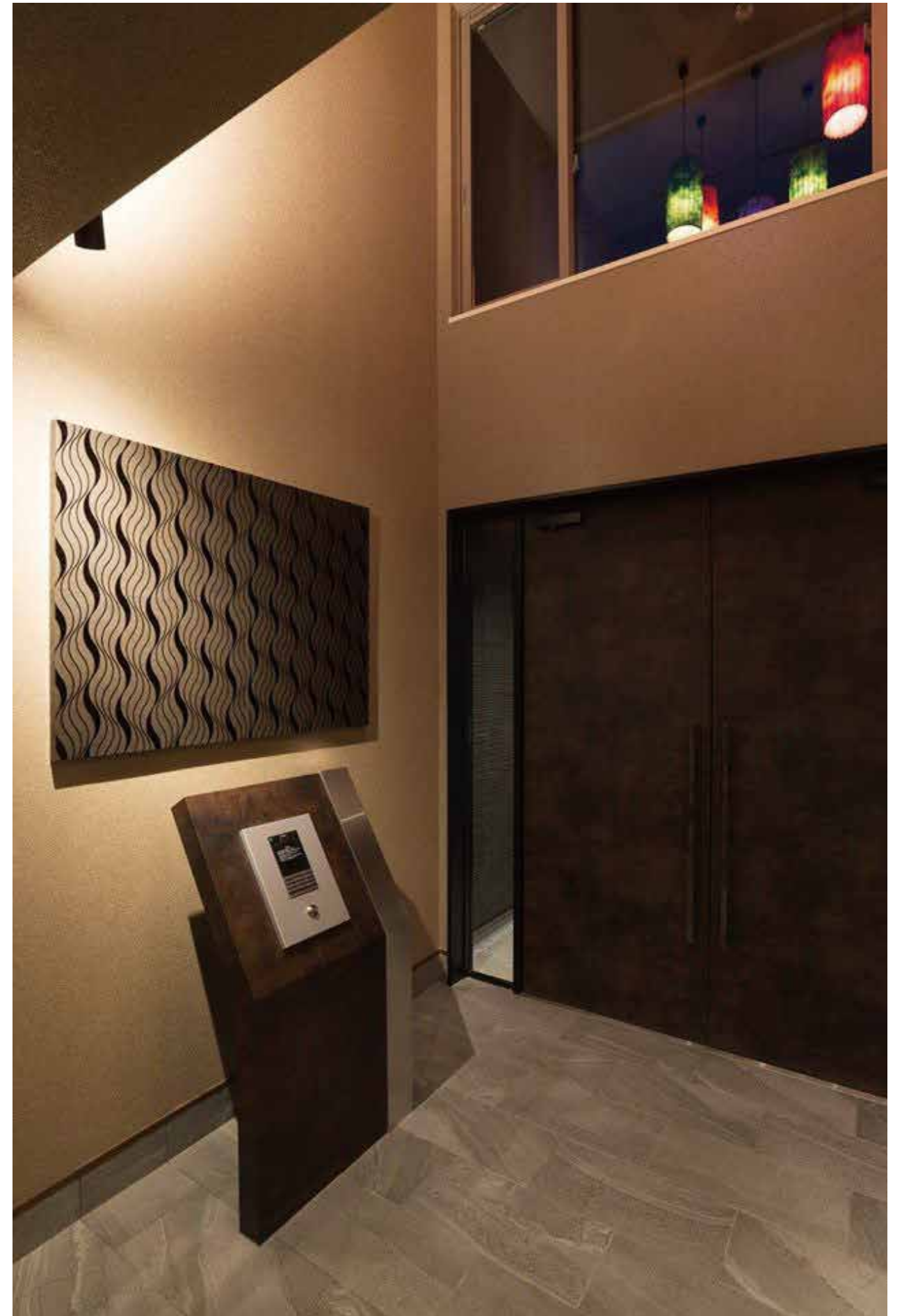
日本における漆の利用は縄文時代に始まったと言われており、平安時代には自社仏閣の内装、調度品類にも使用され、又、貴族の日常生活品にも好んで用いられるようになりました。

鎌倉時代以降は、武士の武具甲冑等にも使用され、江戸時代には全国各地で生産され、輪島塗、会津塗、津軽塗等、様々な漆器産地が生まれました。

漆塗りは、時が経つにつれて深みを増す、独特の風合いと、熟練した職人の技術による多彩な表現が、無限とも思える表面加工のバリエーションを生み、空間や家具、什器を工芸アートとして仕上げ、ラグジュアリーな演出が可能です。







LACQUER



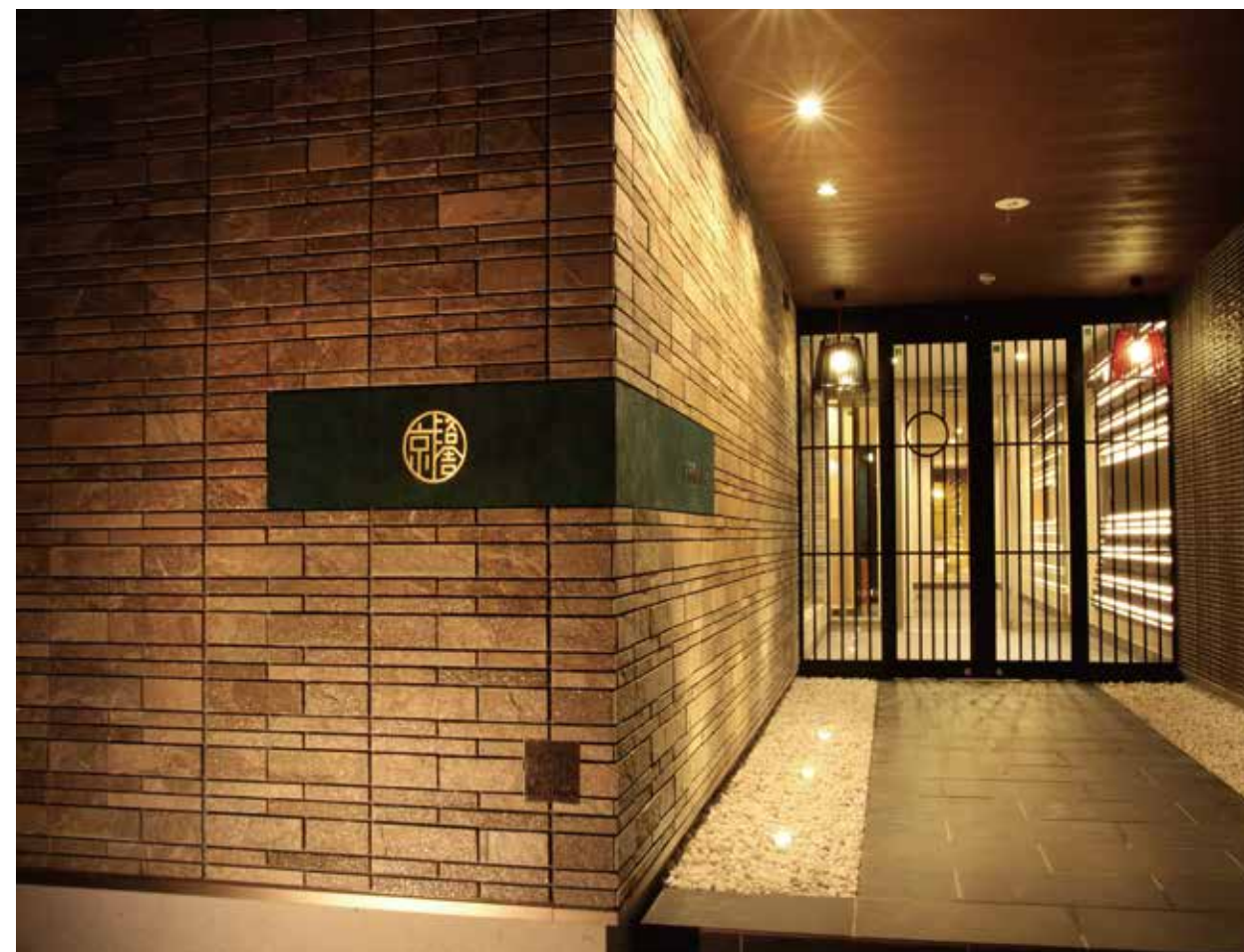
METAL | 金工





弥生時代に中国大陸から、朝鮮半島を経て日本に伝来した、青銅器、鉄器等の金属加工技術は、青銅製の剣や防具、装身具等から始まり、鉄器による農機具、生活道具まで、幅広い用途に使われてきました。武士の刀剣や和包丁制作では熟練した刀鍛冶が腕を振るい、仏像制作では、銅や真鍮の多彩な着色技術が生まれ、日本の金属工芸は発展してきました。

鑄金、鍛金、彫金、着色等、多様な加工・仕上げの技術があり、美しい金属光沢やシャープな質感は高級感を演出します。耐久性、不燃性能も高く、様々なインテリア空間で活用できます。



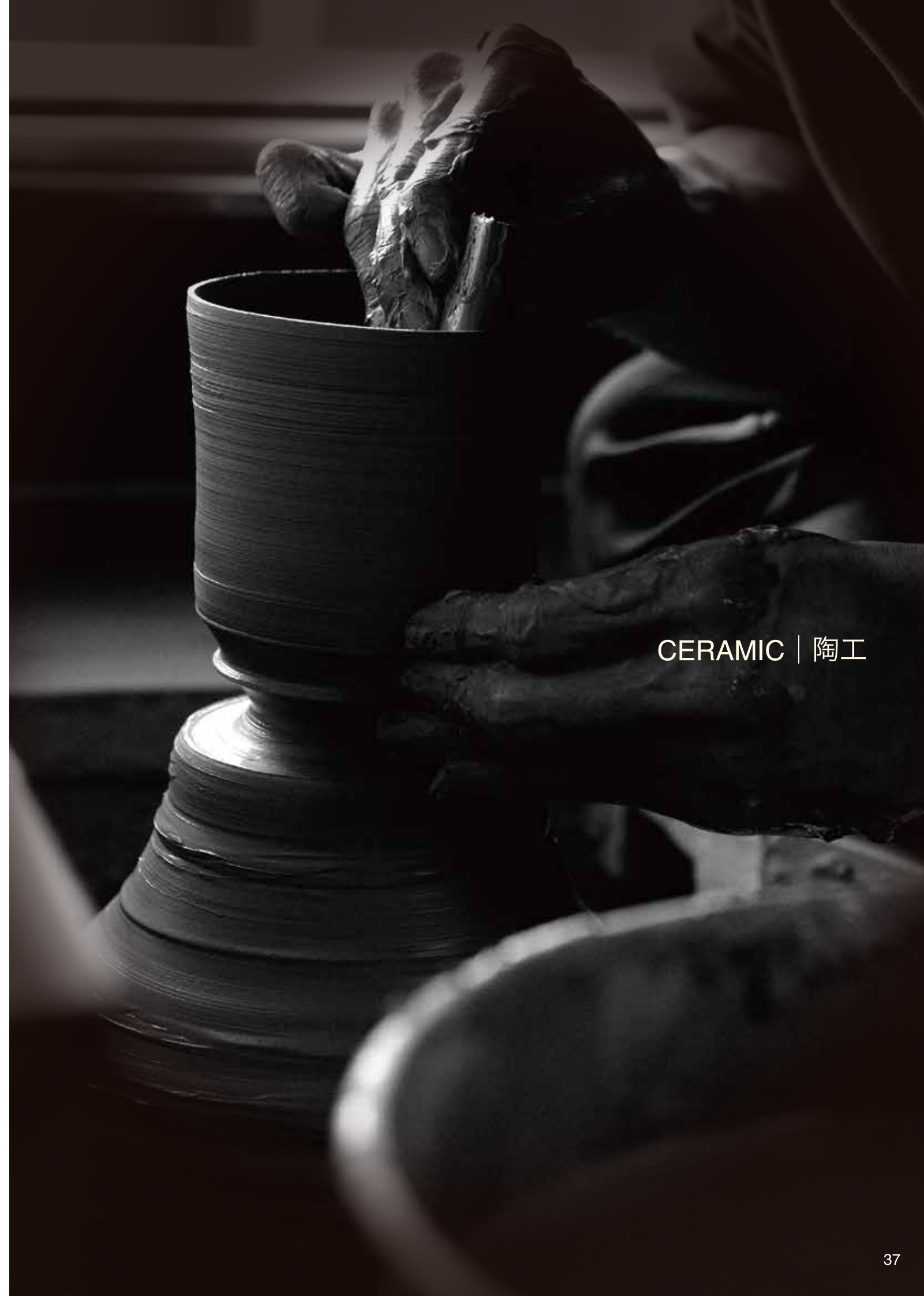


Design by Yenhua LU



Design by Yenhua LU



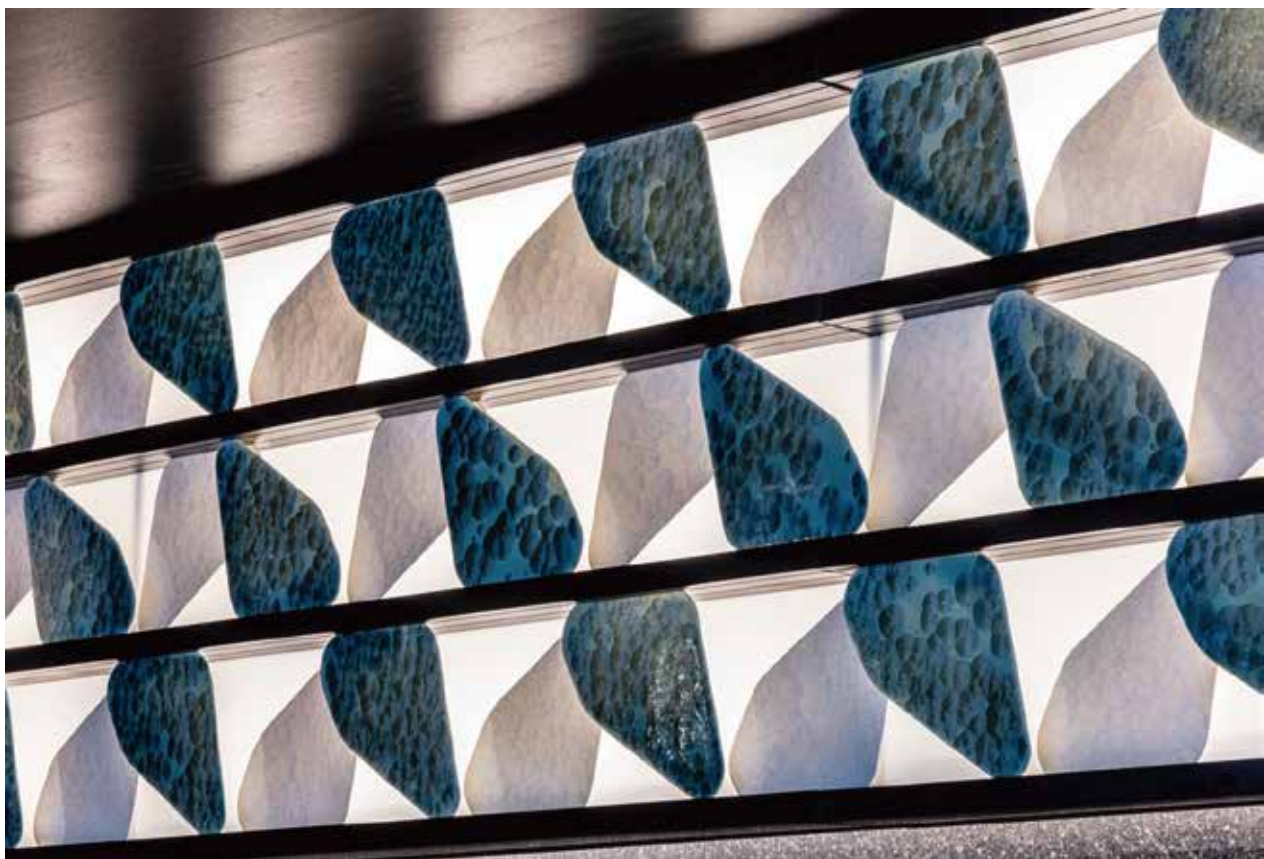




太古の昔から、様々な道具を生み出して来た陶芸（陶磁器、瓦等の焼物）。陶土を原料として、ロクロや型を使って成形し、釉薬をかけ焼成して作られます。使われる釉薬により、色柄や風合いが様々に変化し、陶磁器の表面がガラス化して覆われる事により、艶やかな風合いを演出します。

絵付技法や焼成方法、釉薬の組み合わせ等、無限のバリエーションがあり、立体的なオブジェだけでなく、陶板による平面表現も可能。インテリアだけでなく、瓦やタイル等、対候性の求められるエクステリアにも使用可能です。







CERAMIC



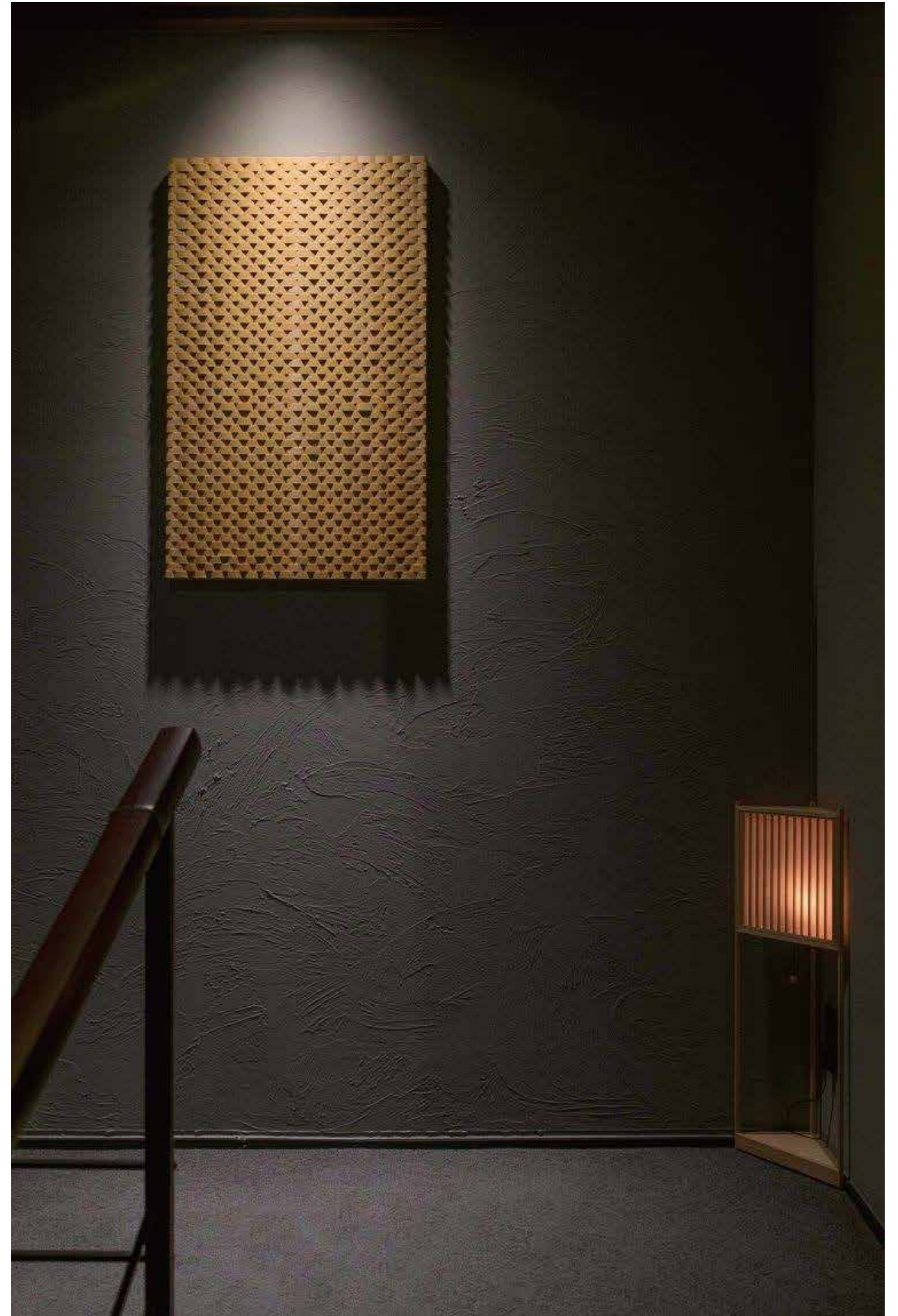
BAMBOO | 竹



東南アジア全域に分布する竹工芸は、日本においても古来より身近な存在として親しまれて来ました。日本においても、自社仏閣の竹垣や茶道具、籠、笊(ざる)、家具、照明等、様々な工芸品や民芸品の素材として多用され、割る、曲げる、組む、編む等の技術が発展し、様々な表現が可能となっています。京都では「白竹、ごま竹、図面角竹(ずめんかくちく)、亀甲竹」と呼ばれる独自の育成、加工方法が発達し、「京銘竹」と呼ばれています。

竹は、身近にある建材として、古来より建築、インテリアの分野でも幅広く使用されています。シャープで幾何学的な表現から、有機的な表現まで、用途と目的に合わせた提案が可能です。

竹は生育が早く、環境に優しい自然素材として、近年改めて注目されており、放置竹林の再生やバイオマス原料としての取り組みも行われています。自然環境に配慮した、持続可能社会実現の為に、より一層の活用が期待されています。





Design by Oliver Franz



Design by Oliver Franz



Design by Oliver Franz



Design by Oliver Franz



Design by Oliver Franz



Design by Oliver Franz



Design by Yenhua LU



© Photography by Masaki Hamada (kkpo)

Design by 隈研吾建築都市設計事務所



© Photography by Masaki Hamada (kkpo)

Design by 隈研吾建築都市設計事務所



Design by C&DC co.,Ltd 佐久間圭介



Design by Yenhua LU



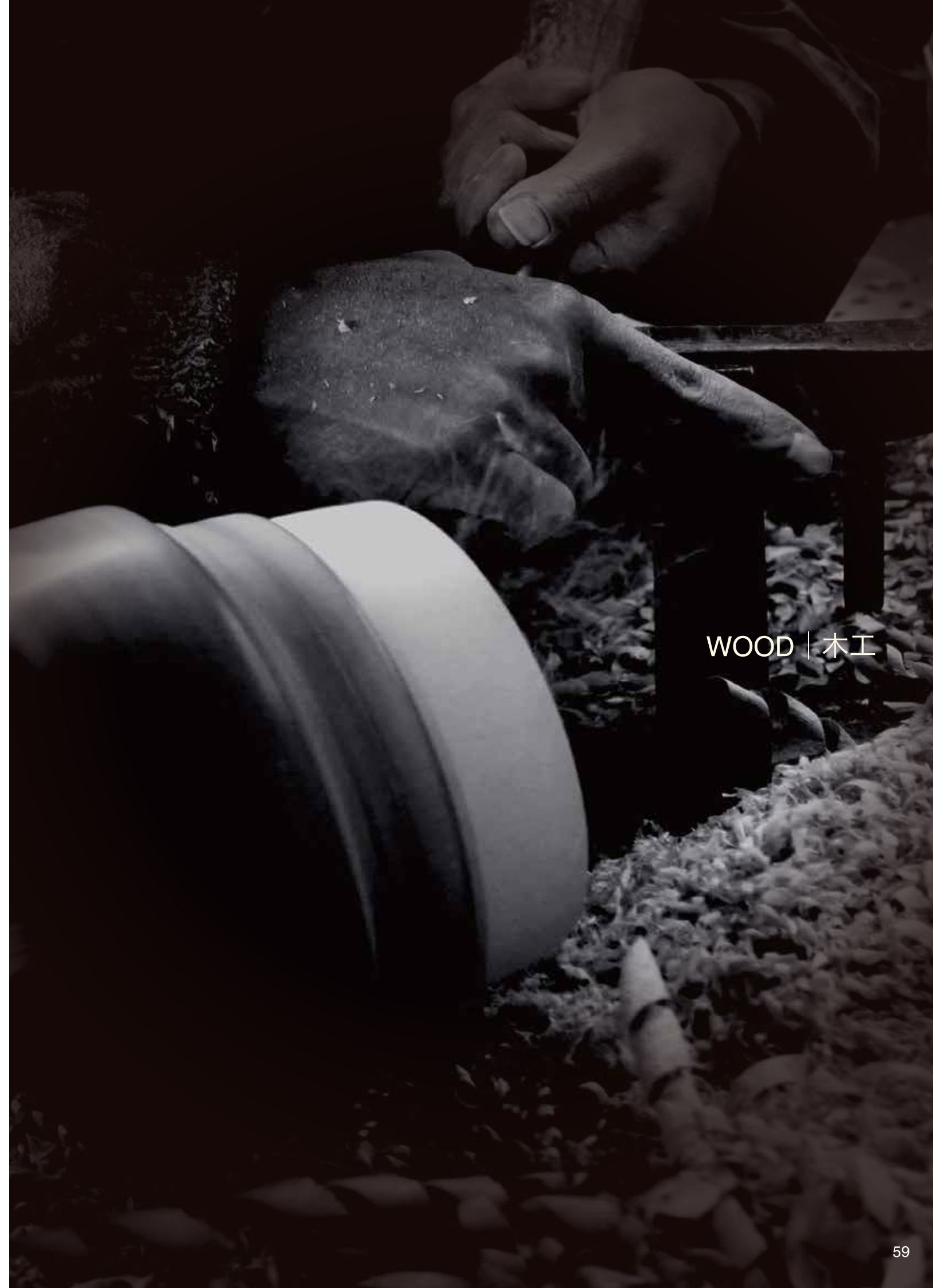
Design by Yenhua LU



BAMBOO



WOOD | 木工





世界最古の木造建築物「法隆寺」に代表されるように、現代でも木造建築を主とする日本の住空間において、「木」は非常に重要な素材であり、多用されてきました。日本の木工芸には、指物（さしもの）、挽物（ひきもの）、削物（くりもの）、曲物（まげもの）等の技術があります。

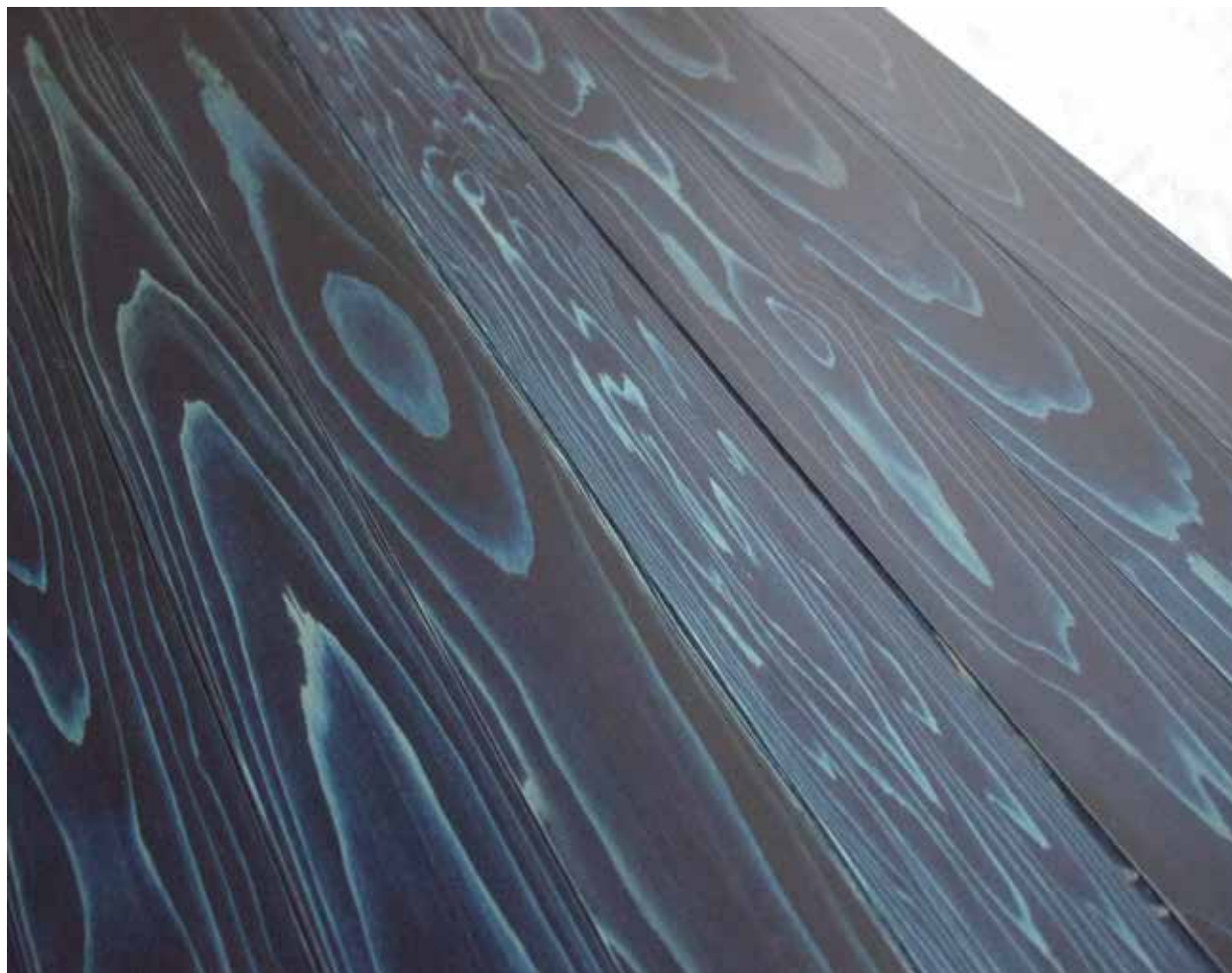
京都では公家や朝廷文化、茶室建築で培われた京指物や北山杉の技術、石川県山中地方や、岐阜、長野に広がる木曽地方に伝わる優れた挽物技術、そして北海道の雄大な自然の中で発達した家具製造技術等、各地方に生育する杉、檜、樺（けやき）、桜、栗等の林業と共に発展して来ました。その加工技術は諸外国に比べ非常に繊細で、自然と共生して来た日本文化になくてはならない、建築、インテリア素材です。







WOOD



FABRIC | 織物





着物に代表される、織物や染物は日本文化を代表する伝統産業です。絹、綿、麻などの天然繊維はもちろん、近年は耐久性の高いポリエステル等の化学繊維、そして環境負荷に配慮したリサイクルPETや和紙で作られた糸も原材料として使用されるようになってきました。織物には数多の技法があり、テキスタイルとしての表情は千差万別です。特に着物や帯の技法として発展してきた「金糸・銀糸」を用いた織物は絢爛豪華な高級感を演出出来ます。型染友禅や絞り染め等の繊細な染織技法とも合わせて、「日本の文化」を分かりやすく表現でき、インテリア空間に雅やかさや、和風感を表現できます。

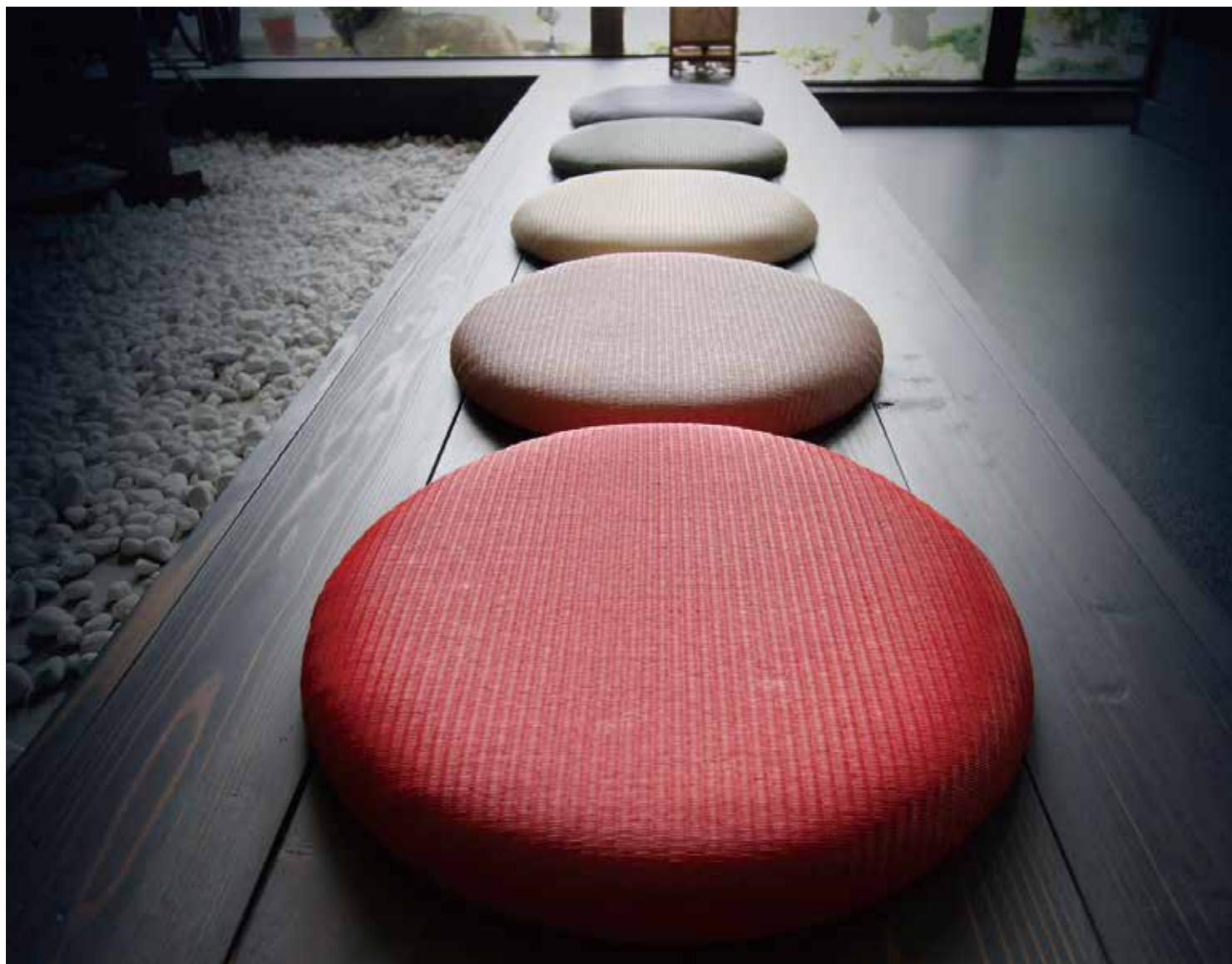
近年はレーザーカットやインクジェット捺染等の現代的な技術も発達し、デジタル技術と手工芸の技術を組み合わせて、小ロットでも、サイズ、素材、仕様、デザインまで自由に選べるオーダーメイドテキスタイルの制作も可能で、家具の張地や、クッション、タペストリー、ベッドスロー、ラグ等のファブリック商品、アートパネルや緞帳、大型スクリーンまで、自由度の高い空間表現が可能です。ガラスやアクリル素材に封入する事で、不燃性や難燃性を付加したり、様々な加工が可能です。







TATAMI | 畳み



日本家屋には無くてはならない存在である「畳」。現代では和室のある建物は少なくなってきましたが、それでも部屋の広さを表す時には、洋間でも「〇畳(じょう)」の部屋と呼びます。それは日本の生活と密接に関係して来た畳は、自然素材である「イグサ」を織って生地にした「畳表(たたみおもて)」を、心材である畳床(たたみどこ)に巻き付けて固定し、パネル状にした床材です。

この畳を一定の法則に従って部屋に敷き詰めて使用して来ましたが、琉球畳と呼ばれる真四角の畳パネルをフローリングの上に敷いて使用する事例が増え、自然素材を用いたインテリアとして、家具の座面に小型の畳を施工したり、壁面や空間装飾として、伝統工法にのみ囚われる事無く、自由な発想で使われるようになってきました。スクエアな形状に限らず、円形や多角形な形状に取り組んだり、畳表にも、和紙や樹脂等の用途に合わせた様々な素材を選択する事が可能です。

